

八戸港館鼻岸壁「みなと日曜朝市」の 経済波及効果と地域活性化への課題

～日本一の「館鼻岸壁日曜朝市」～

Economic Ripple Effect impacts on ‘the sunday-morning market’
at Tatehana Wharf in Hachinohe harbor

高橋 俊行

【研究目的】 八戸港の館鼻岸壁で開催されている「みなと日曜朝市」は、出店規模、来場者数とも国内最大規模で、「日本一の朝市」として全国的にも名が知られ、地域経済の活性化に対する貢献度が高く評価されている。

そこで、地元産品の消費市場としての「みなと日曜朝市」の調査・分析を通して、その実態経済を把握することにより、当該朝市が、八戸市を中心とした地域の産業経済に対して、どのような経済波及効果をもたらしているのかを明らかにする。そして、今後、八戸地方において、当該朝市の事業運営とともに、地域経済の活性化の牽引役として、地元産品の「地産地消」による経済振興や観光産業の振興に役立てることを目的に研究調査を行うものである。

【要旨】 日本一の規模といわれる八戸港館鼻岸壁「みなと日曜朝市」が開催される館鼻岸壁の駐車場には、夜明けとともに326もの店が軒を連ねる。八戸市内や陸奥湊駅前の魚菜市場をはじめ、青森県三戸郡及び上北郡（調査時点平成23年10月～24年4月）や岩手県北地方から、農家、漁業家をはじめ弁当、惣菜、漬物などの食品製造業、魚介類、青果物、衣料・日用品、骨董品などの販売業や、飲食店、お好み焼き屋、コーヒーショップなど実に多種多彩な業種が集まっている。

朝市会場への来場者も、湊周辺を中心とした八戸市民をはじめ、青森県南から岩手県北にかけての住民や県外からの観光客で賑わい、日が昇り始める早朝から午前9時過ぎまでには、平常月でおよそ1万2千人、繁忙期には2万人を超える来場者で朝市会場が埋め尽くされ、年間にしておよそ60万人が訪れる。

出店業者の年間売上高は推計6億1千万円で、さらに、周辺店舗・関連事業から観光関連、朝市の運営費などを加えた総需要発生額はおおよそ10億3千3百万と推定さ

れる。その結果、算出される八戸港館鼻岸壁「みなと日曜朝市」の経済波及効果は、八戸市を中心とした北奥羽経済圏におよそ15億9千8百万円がもたらされ、新規の雇用者数は150名と想定される。

第1表 八戸「みなと日曜朝市」の経済波及効果

(単位: 百万円)

| | 生産誘発額 | 出店者売上等 | 朝市事務局の 運営費 | 周辺施設・ 関連需要 | 観光関連需要 | 雇用者誘発数 |
|----------|---------|--------|---------------|---------------|--------|--------|
| ①需要発生額 | 1,033.3 | 632.8 | 7.1 | 137.1 | 256.3 | |
| ②直接効果 | 1,007.4 | 609.5 | 4.4 | 137.1 | 256.3 | 113 |
| ③第1次波及効果 | 331.5 | | | | | 21 |
| ④第2次波及効果 | 258.9 | | | | | 16 |
| 合計 | 1,598.0 | | | | | 150 |

1. 日本一の朝市

八戸市は、「唄に夜明けたカモメのみなと」と八戸小唄で歌われているように、かつて全国に、日本一の水揚げ高を誇る水産都市として名をはせた。その日本一の水揚げ高を支え

てきた第三魚市場のある館鼻岸壁において、通路を挟んで全長800メートルにわたり、326の緑色の屋台テントや戸板店舗が軒を連ねる。そこには通常の朝市というイメージを



資料提供: ユキパル

飛び越え、朝市のイベント会場といった方がふさわしい風情がかもしだされ、日本一の規模の朝市が繰り広げられている。

毎年、3月中旬から12月末の日曜の早朝、湊地区（鮫、白銀、湊、小中野）周辺をはじめ、八戸市内（人口24万人）全域から青森県南及び岩手県東北地域、さらに県外から買い物や観光を目的に、一日1万人超からピーク時には、およそ2万人超の人が来場する。

平成16年3月に開場以来、今年（平成24年6月現在）で8年目を迎えるが、平成23

年3月11日の東日本大震災には、高さ6.2メートルの津波に会場周辺地域が襲われ、3月20日からの開場の延期を余儀なくされた。震災当初は、港湾施設の被害が予想以上に甚大（八戸市の被害額1,212億円）であっただけに、一時、朝市の再開が危ぶまれた。

しかし、いち早い八戸の大震災からの復旧振りを象徴するかのように、平成23年7月3日、例年の開催日より3ヶ月遅れながらも再開にこぎつけ、例年を上回る賑わいを取り戻すことができた。



資料提供：ユキバル

2. 日曜朝市の経緯

「日本一の朝市」と呼ばれる日曜朝市がスタートしたのは、平成16年3月21日である。館鼻岸壁の駐車場の一面に、野菜や魚介類、

惣菜、衣料、雑貨など200軒もの露店が、350メートルにわたって軒を連ね、新たな風物詩のスタートを切った。

従来、「湊日曜朝市」は、湊町の通称・山手通りで開催されていたが、市道での交通渋滞や違法駐車問題に加えて、路上での小用や騒音など住民からの苦情も絶えなかった。それに近年、交通事故が多発するようになり、八戸警察署から中止などの指導が行われるようになったことを契機に、3年ほど前から日曜朝市の移転問題が起き上がっていた。

そこで、主催者の湊日曜朝市会では、行政当局（八戸市商工労政課）への相談や関係団体等との協議を重ねた。その結果、東京一八戸駅間の新幹線開通後の観光資源としての果たす役割が大きいという認識の下に、県の管理地である館鼻岸壁を無料で賃借し、駐車場、トイレ、水回り等の衛生管理を完備したうえで、移転することが決定された。

一方、それに先駆けること半年前に、「海の八戸NPO法人」では、「海の朝市実行会」を立ち上げ、平成15年9月20日より、館鼻岸壁に隣接する「海の駅」（旧ウオッサン）において、「海」を活用した活性化事業の一環として、年末年始を除いた毎日、10数店

舗による「海の朝市」を行っていた。

平成16年3月、「湊日曜朝市」の館鼻岸壁への移転を契機に、「湊日曜朝市会」及び「海の朝市実行会」による八戸港館鼻岸壁「みなと日曜朝市」が、一体となって開催されるようになり、来場者も約3,000人を数えるまでに成長した。

また、その年の平成16年9月19日には、平成14年12月開通の東京一八戸駅間の新幹線「はやて」に伴う観光振興の後押しもあって、八戸市営バスが朝市会場「日曜朝市循環バス」を運行するようになった。

翌平成17年を迎えると、現在規模の300店舗以上の出店者が参加するまでになり、来場者も1万人を越えるほどに拡大し、八食センター、屋台村に次ぐ新たな観光スポットとして、全国的にも注目されるようになった。

その後、平成20年度には、「朝市」「銭湯」八戸あさぐる（乗合タクシー）の実証試験がスタート、「海の朝市」のコンセプトの下に観光事業との連携をとりながら、地域の活性化を図ろうとする事業が着実に実を結んでいったといえよう。

3. 出店業者と売上規模

(1) 出店者数と業種構成

① 出店者数と業種

朝市というと野菜や果物、花木などの農産物の戸板販売がイメージされる。ところが、みなと日曜朝市では、生鮮魚介類をはじめ、おにぎり、弁当、天ぷら、から揚げ、総菜、パン、菓子などの日配品から、衣料・靴や日用雑貨品などの屋台テントが軒を連ねる。さ

らにお好み焼き、焼き鳥、チョコバナナなど祭りの縁日さながらの屋台テントから、ラーメン、そば、せんべい汁などの飲食テントが、「みなと日曜朝市」の独特の賑わいをかもしだしている。

最近では、中古自家用車や電動工具、骨とう品、リサイクル品などの商品がバラエティに展示され、時季には会場や店舗の一角で、

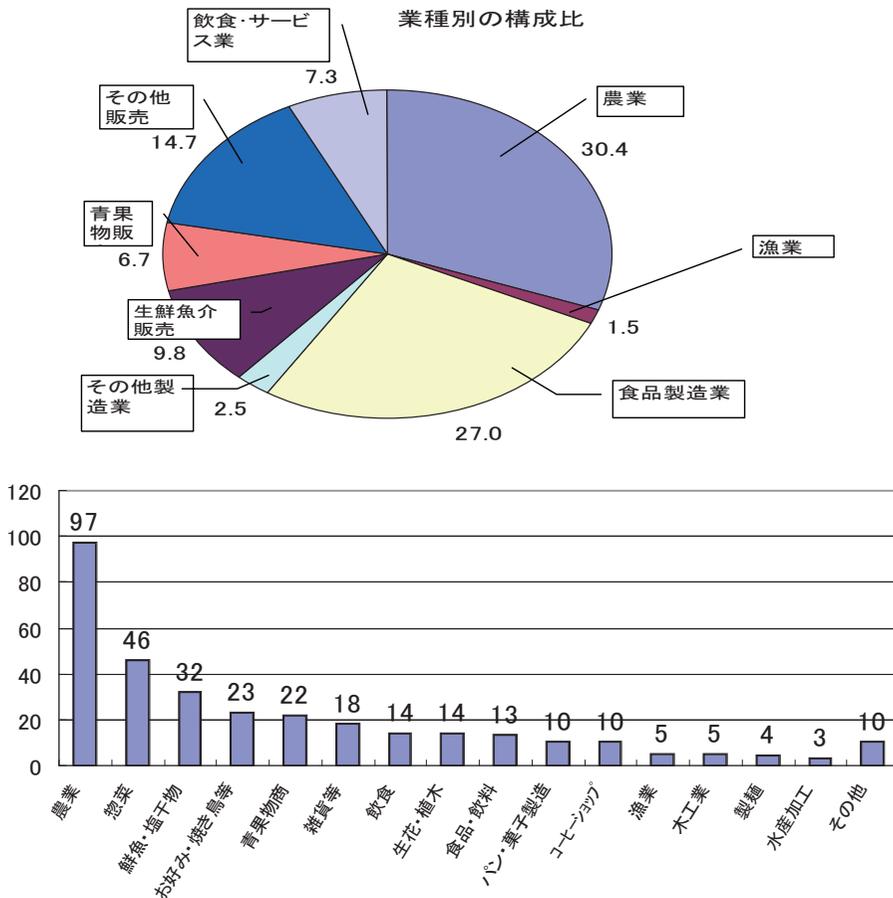
地元歌手や生バンドなどの演奏が行われるなどイベント会場さながらである。

実際に、どれくらい出店数があるかという
と、平成23年秋から同24年春にかけ、全出店業者を訪問し取材調査した結果、出店数は326件を数えた。

業種別にみると、農家が97店と最も多く、弁当、天ぷら、漬物などの総菜の販売が46店、魚介類及び青果物の販売業者は、それぞれ32店、22店であった。（第1図）また、お好

み焼きやたこ焼き、チヂミ（韓国料理）や焼き鳥などが23店舗と、食べながら朝市を散策する家族づれが、館鼻岸壁の早朝の風物詩となっている。

その他、ラーメン、そば、せんべい汁、なべ物などの飲食店が14店舗で、屋台テントの裏手に備えられたテーブルと椅子のコーナーは、朝食に舌づつみを打つ家族で賑わいを見せている。また、屋台街のところどころに所在するカフェ風のコーヒー・ショップも



第1図 業種別出店業者 (326店)
(出所：高橋取材調査データ)

10件を数え、常連客の団らん場所として人気を集めている。

② 「みなと日曜朝市」の運営事業体

「みなと日曜朝市」は、「湊日曜朝市」会(207店)と「海の朝市」(119店)により構成されており、「湊日曜朝市」会はもともと陸奥湊・柳町に出店していた業者が主体のため、農家や鮮魚・魚介類の販売業者、青果物販売業者が6割方を占めている。

一方の「海の朝市」の出店者は、海の八戸MPO法人が運営を委託した海の朝市実行会が運営主体で、新たに出店応募して参加した業者が多いことから、出店業者がバラエティに富んでいる。農家や鮮魚・魚介類の販売、青果物販売業者が3割方にとどまる一方、総菜、お好み焼き、飲食関連業者が4割を占めるほか、衣料から日用雑貨、骨とう品、自動車、電動工具など多彩である。

朝市全体としては、まさに何でもありの感を呈しており、見物、観光目的に訪れた来場

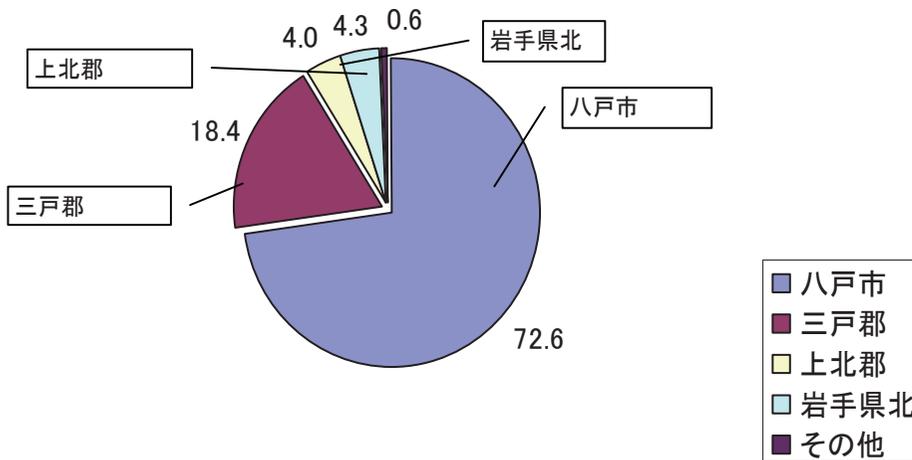
者にとって、「目新しさ」や「驚き」「感動」を持って受け止められている反面、「これが朝市?」といった驚きと違和感をもって受け止められている側面もある。

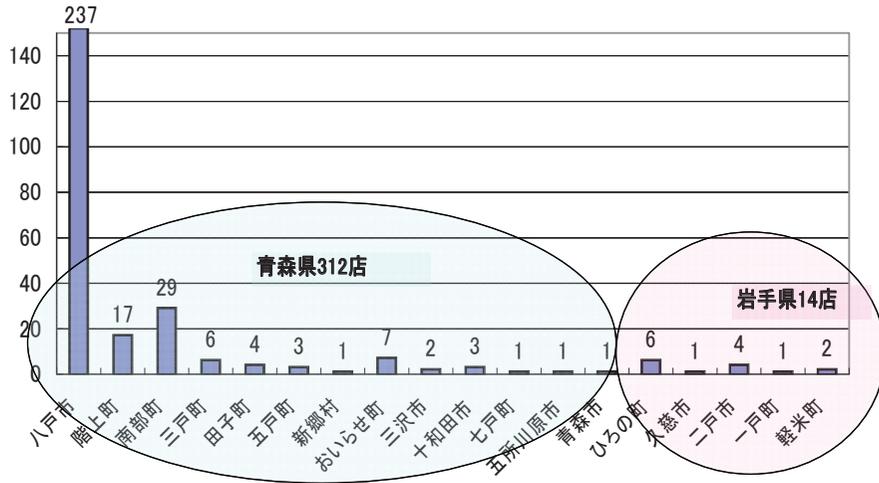
(2) 出店者の居住区と経済波及効果の経済圏

「みなと日曜朝市」への出店者の居住地区をみると、かなり広範囲に及んでいる。そのなかでも、八戸市内からの出店者が237件と最も多く、是川、大久保、下長といった市街地周辺の農家や湊地区の鮮魚販売店の出店が多いのが特徴である。

また、八戸市以外では、果実の栽培が最も盛んな南部町からの出店業者が際立っているほか、階上町、三戸町、五戸町などの三戸郡の町村からの出店業者が多い。その他、北はおいらせ町、十和田市、三沢市などの上北地域、南は岩手県北の久慈市から二戸市、広野町、軽米町、一戸町など広範囲に及んでいる。

地区別出店者構成比





第2図 地区別の出店者数
(出所：高橋取材調査データ)

そうした意味で、八戸「みなと日曜朝市」の経済波及効果の対象エリアとしては、八戸市を中心に三戸郡・上北郡の青森県南地区や、二戸市や一戸町から九戸郡広野町、軽米町な

ど岩手県北の市町村の居住者の出店多いことから、八戸市から半径およそ30kmの距離内に入る北奥羽経済圏域が該当すると考えられる。



(3) 朝市の売上規模

出店業者の売上高は、取扱い品目が農水産物が主体であることから、りんごやサクランボ、ブドウ等の収穫時期や、秋サケ、イカ、タラ等の漁獲時期によって商品のボリュームが大きく変動するほか、夏から秋にかけての観光シーズンには来場者が膨らむなど、時季によって売上高の変動が大きい。

そこで、出店業者からのヒアリング取材調査を通して売上高を積み上げ集計し、全体売上高の推計を試みたところ、平常月の売上高は、1日およそ1千2百万円と見込まれる。また、年間の売上高は、来場者の繁忙期と収穫・漁獲等の季節変動値を割増換算（50.5ヶ月）して集計したところ、およそ6億1千万円と推計される。

これを、業種ごとに売上を推計したのが第

2表の「業種別売上高推移」である。それによると、平常月の1業者当たりの1日の平均売上高は3万7千円である。年間の売上高で見ると、出店業者の多い農産物・園芸等が1億1千6百万円、続いて購入単価の高い鮮魚・塩乾物の1億1百万円のほか、天ぷら、弁当などの総菜が9千5百万円、青果物商による青果販売店が5千5百万円と想定される。

また、ラーメン、そば、せんべい汁などの飲食が4千5百万円、お好み焼き、チヂミ、から揚げ、焼き鳥などが3千7百万のほか、コーヒーショップが2千5百万円と人気が高いのが特徴である。その他、衣料、靴、手芸品、日用雑貨、植木、骨とう品、電動具、自動車などの販売が2千6百万とホームセンターさながらである。

第2表 業種別売上高推計

(千円)

| | 業種 | 取り扱い製品 | 1日当り 売上高 | 出店者数 | 平均売上 | 年間売上高 |
|----|---------|-------------------------|-------------|------|------|---------|
| 1 | 農業 | 農産物・園芸等 | 2,300 | 99 | 23.2 | 116,150 |
| 4 | 漁業 | 漁業 | 150 | X | 30.0 | 7,575 |
| 6 | 食料品製造業 | 水産加工品 | 180 | X | 60.0 | 9,090 |
| | | 製麺・豆腐等 | 250 | 6 | 41.7 | 12,625 |
| | | パン・菓子 | 560 | 10 | 56.0 | 28,280 |
| | | 惣菜（天ぷら、弁当、漬物） | 1,890 | 46 | 41.1 | 95,445 |
| 8 | 木製品 | 木工製品 | 70 | X | 14.0 | 3,535 |
| | その他 | 畳屋・炭・雑貨 | 90 | X | 30.0 | 4,545 |
| 25 | 商業 | 鮮魚・塩乾物 | 2,000 | 32 | 62.5 | 101,000 |
| | | 青果物 | 1,090 | 22 | 49.5 | 55,045 |
| | | 生花,切花,植木 | 410 | 14 | 29.3 | 20,705 |
| | | 食品・飲料 | 440 | 13 | 33.8 | 22,220 |
| | | 衣料・身の回り・雑貨等 | 520 | 21 | 24.8 | 26,260 |
| 35 | 対個人サービス | 飲食（ソバ・ラーメン・せんべい汁、すいとん等） | 900 | 14 | 54.3 | 45,450 |
| | | お好み・たこ焼、チヂミ、焼鳥等 | 730 | 23 | 31.7 | 36,865 |
| | | コーヒー・その他 | 490 | 10 | 49.0 | 24,745 |
| | 合 計 | | 12,070 | 326 | 37.0 | 609,535 |

データ：高橋の取材調査による推計値

(4) 雇用効果（パート・アルバイト雇用）

今回の朝市に出店する業者は、普段店舗を常設している事業者より、毎週日曜日の1回、あるいは他の曜日の朝市、またはお祭りなどのイベントの際に、店を開いている農家や野菜、飲食店、販売業者が多い。

そうした臨時的な営業を行っている業者は、毎週日曜日の早朝から午前10時までの開業時間帯であるが、来場者の訪れる5時過ぎから7時過ぎにかけてがピークとなること

から、その時間に揚げたり、炊いたり、焼くなどの調理や飲食の提供に人手がかかることから、パートやアルバイトを雇って営業を続けている業者が多い。

今回、出店に際して2人以上から店に携わっている従業者をカウントしてみたところ、およそ280人（うちパート・アルバイトを180人と推計）を数えることができた。出店業の326を加えると、出店社側の全従業者は600人を超えることになる。

4. 来場者の買い物行動と満足度

～来場者に対するアンケート調査結果から～

今回の調査に際は、八戸大学の学生4名の協力を得て、23年11月に、来場者に対するアンケート調査を2日間、来場者数のカウントを1日行った。

(1) 来場者の人数と構成

① 来場者数

平成23年11月13日、朝市会場の出入り口5ヶ所で、入場者をカウントした結果、来場者は、およそ1万2千人と推計される。

年間の総来場者数は、夏場から秋の繁忙時期が平常時の日曜日の1.5倍の来場者と見なして算出した場合、1年間（10ヶ月）におよそ60万人が「みなと日曜朝市」に足を運んだことになる

ア. 1日の来場者数（推計）

- 平常月の来場者 約12,000人
- 繁忙月（3ヶ月）の来場者 約18,000人

※イベント開催日やお盆シーズンには2万人を超える。

イ. 年間の来場者数（推計）

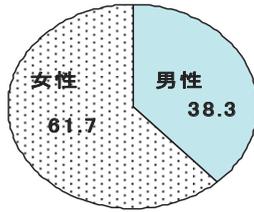
| | | |
|-----|---------------|-----------|
| 平月 | 12,000人 × 28日 | =336,000人 |
| 繁忙月 | 18,000人 × 15日 | =270,000人 |
| 合計 | | 約600,000人 |

② 来場者の属性

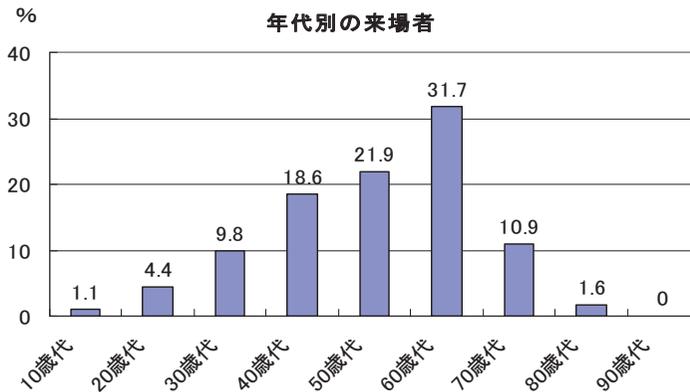
男女別では、買い物目的の来場者が8割にのぼっていることもあってか、女性の来場者が6割強を占めている。

一方、男性は4割弱で、見学または散策しながら、なじみの友人とコーヒーを飲みながら歓談する姿が目を行っている。

来場者の年代をみると、60歳代が31.7%、50歳代が21.9%の順で多く、70歳代の10.9%を加えると、実に、中高年齢者が6割強を占めており、シニア層が朝市の最大のお得意さんで、20、30歳代の若者層は14.2%に過ぎなかった。



出所：来場者に対するアンケート調査



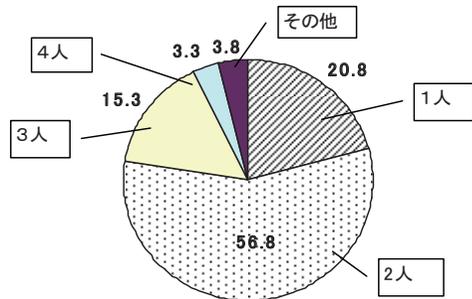
出所：来場者に対するアンケート調査

③ 二人連れなど小グループの来場者が7割強

来場者の行動をみると、夫婦や友人との二人づれが56.8%と最も多く、続いて3、4人づれといったファミリー・グループが18.6%といったように、少人数のグループで訪れる来場者が75.4%と大方を占めている。

一方、1人での来場者は、全体の2割強であるが、そのうち女性が6割方を占めている。そのなかでも、徒歩、自転車などの交通手段が5割強を占めているように、「みなと日曜朝市」が、近隣周辺の女性から、朝の食材を

買い求める台所代わりに利用されていることがうかがわれる。



出所：来場者に対するアンケート調査

(2) 来場者の居住地と目的、訪問頻度、交通手段

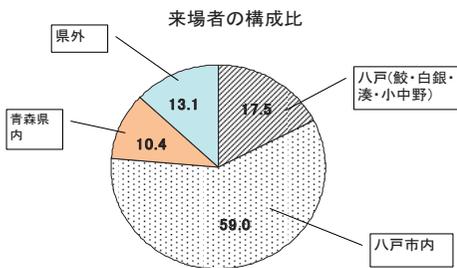
① 来場者の居住地

平常月で、一日およそ 12,000 人という来場者がどこから来ているのだろうか。来場者に対するアンケート調査の結果によると、市内居住者が 76.5% と圧倒的である。なかでも鮫、白銀、湊、小中野地区といった湊周辺地区が 2 割強（全体では 17.5%）を占めている。

また、八戸市外からの来場者は全体の 23.5% であるが、八戸市から片道 30 キロ圏内にある、三戸郡や上北郡の市町村など県南地域からの来場者が多い。

一方、青森県外からの来場者は 10.4% を占めており、そのうちの大半が、洋野町、一戸町、二戸市、久慈市などの岩手県北からの買い物客と想定される。

その他、来場者全体の 6.0% は、他県からの観光客で、アンケートの回答者の中では、東京、福島、仙台、秋田などからの来場者が見られた。



出所：来場者に対するアンケート調査

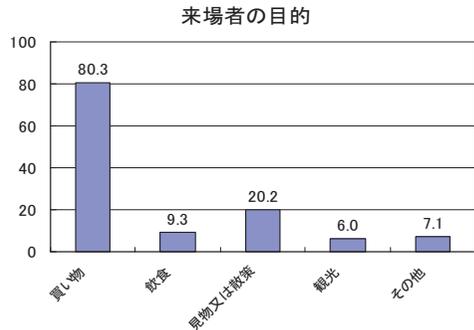
② 来場目的

来場者の目的（複数選択）は、買い物約 8 割と圧倒的に多く、見物又は散策目的も 20.2% を占めており、およそ 2 千人強の来場

者が、屋台テントを覗きながら、「意外なモノ」をぶらぶら探す楽しみに訪れている。

また、全体の 9.3% にあたる 1 千人強の来場者が、家族連れや友人を連れ添って、買い物ついでに、ラーメン、そば、うどん、せんべい汁など朝食に舌鼓を打つ姿が目についている。

その他、観光目的が 6.0% と、人数にして 1 日 700 人前後の来場者が観光目的に訪れており、そのうち 1 割弱の方が新幹線で訪れていることから、全体としては、来場者の 0.5% にあたる 66 人程が宿泊を伴う観光客と考えられる。

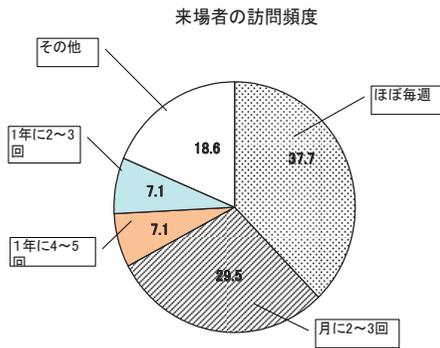


出所：来場者に対するアンケート調査

③ 訪問頻度

訪問頻度をみると、来場者 12,000 人のうち約 4 割弱にあたる 4,500 人が毎週訪れており、月に 2~3 回の馴染み客を併せると、実に 7 割弱の来場者が、「みなと日曜朝市」の常連客ということになる。

そうした一方、2 割弱の来場者は、「初めて」または「2 年以上振り」に訪れているように、来場者の新鮮度が高く、市場のリフレッシュが図られている。



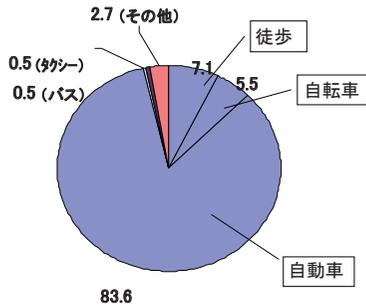
出所：来場者に対するアンケート調査

④ 交通手段

朝市までの交通手段としては、自動車が8割強と圧倒的に高く、1万人の来場者の足となっている。

また、近隣町内から徒歩または自転車を利用する来場者は、全体の12.6%にあたる約1,500人にのぼっている。

その他、観光等の目的でホテルからタクシーを利用しての来場者は、全体の0.5%の66人で、バスも同様の利用客であった。



(3) 買い物金額・買い物・満足度

① 買い物金額

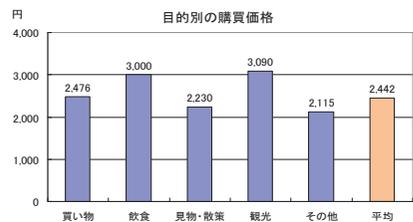
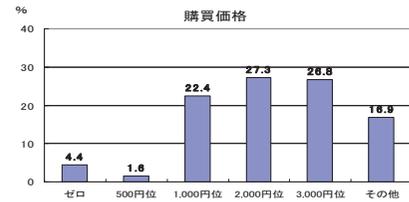
1日の購買金額を聞いてみたところ、一人(あるいは1家族)「2,000円位」が27.3%で最も多く、続いて「3,000円位」の26.8%、「1,000

円位」の22.4%で、平均買い物金額は、一人2,442円と想定される。

この平均買い物金額は、一人当たりの消費支出額というよりは、二人連れ、または3ないし4人連の家族単位での消費支出額が妥当と考えられる。

また、目的別に購買金額を調べてみたところ、観光目的が、一人3,090円と最も高く、飲食が3,000円、買い物が2,476円と続いている。飲食が二番目に高いのは、飲食の場合、家族での食事に加え、併せて買い物も行うことから金額が高くなっていると思われる。

人数単位別の購買金額をみると、「その他(五人以上)」が3,143円で最も高いなか、「三人」が2,679円、「二人」が2,554円、「一人」が2,105円であった。



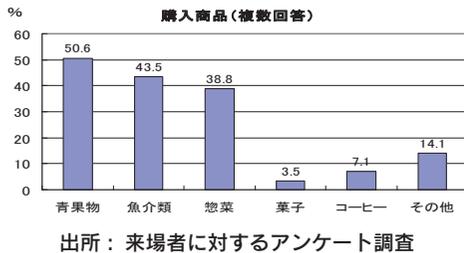
出所：来場者に対するアンケート調査

② 購入商品

2 回目のヒアリング調査の際に、「何を購入されましたか」という質問を行ったところ、半数の方が青果物を購入しているように、朝市というと、新鮮な青果物を買いたいというイメージが裏付けられる。

2 番目に多い購入商品は魚介類で、来場者の 4 割方が購入しているのは、「みなと日曜朝市」ならではの特色といえる。

また、「惣菜」も 4 割近い来場者が購入されているように、朝食としての弁当や焼きそば、天ぷらなどの副食の購入が多かった。「その他の商品」が 14.1% と、お好み焼きや串もち、チヂミ、焼き鳥などが人気が高く、最近では、から揚げの購入が目についている。



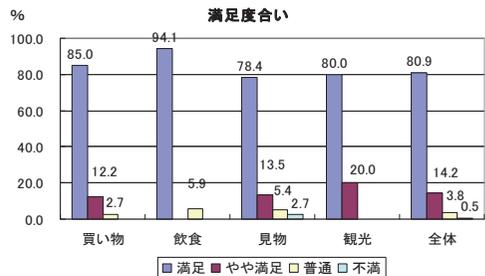
③ 満足度

来場者の満足度合いをみると、8 割が「満足した」、1 割強の「やや満足」と、「満足」が 95.1% と、かなり高い評価となっている。

目的別に満足度をみると、「飲食」目的が 94.1% が「満足した」と答えており、「買い物」も 85.0% と、朝早く新鮮な食材を購入できて満足した、といった様子が見える。

また、「観光」目的も 8 割が「満足」と答えているように、思った以上に満足度が高いことが分かる。

一方、「普通」または「不満」は、全体の 4.3% とあるように、1 日の来場者 12,000 人のうち、500 人前後は覚めた目で見ている。なかでも、「見物または散策」に訪れた来場者の 8.1% は、意外と冷静にみている様子が見える。



5. 八戸「みなと日曜朝市」の経済波及効果

今回の調査では、出店業者や周辺店舗及び関連業者等に対するヒアリング調査、来場者へのアンケート調査、朝市での来場者数のカウント調査等により算出した、八戸「みなと日曜朝市」の需要発生額 10 億 3 千 3 百万円をベースに、「平成 17 年青森県産業連関表」を用いて経済波及効果の推計を試みた。

その結果、「みなと日曜朝市」に関わる需要発生額（10 億 3 千 3 百万円）による生産誘発額は、直接効果 10 億 7 百万円、第一次波及効果 3 億 3 千 2 百万円、第二次波及効果 2 億 5 千 9 百万円を合わせた 15 億 9 千 8 百万円であった。（第 3 表）

また、粗付加価値誘発額が 9 億 3 千 7 百万

円、雇用者所得誘発額が4億7千4百万円と推計されていると推計される。算出され、雇用者は新たに150人が生み出さ

第3表 八戸「みなと日曜朝市」の経済波及効果

(単位：百万円)

| | 生産誘発額 | 粗付加価値誘発額 | 雇用者所得誘発額 | 雇用者誘発数 |
|----------|---------|----------|----------|--------|
| ①需要発生額 | 1,033.3 | — | — | — |
| ②直接効果 | 1,007.4 | 590.6 | 327.5 | 113 |
| ③第1次波及効果 | 331.5 | 177.0 | 81.7 | 21 |
| ④第2次波及効果 | 258.9 | 169.3 | 64.8 | 16 |
| 合計 | 1,598.0 | 936.9 | 473.9 | 150 |

(1) 需要発生額

「みなと日曜朝市」の開催に伴う需要発生額として、第4表に示したように、出店者の売上高6億1千万円を中心に、当該朝市の運営に関わる2ヶ所の事務局の支出額約4百万円、それに朝市の舞台である館鼻岸壁に所在する商業施設や関連事業の売上2千4百万円が直接需要効果として想定される。

また、当該朝市への観光目的で訪れた来場者が、朝市以外に支出される観光消費額2億5千6百万円のほか、朝市訪問の際のタクシー、バス等の交通機関の売上収入約4百万円が見込まれる。

その他、朝市会場は、市街地から遠隔地にあり、出店業者の所在地も八戸市を中心に青森県南、岩手県北にかけ半径30キロ圏にわたるほか、来場者も湊周辺を中心に8割の住民が自動車で訪れることから、自動車の燃料費が、10ヶ月間で購入価格にして1億1千万円と推計され、直接需要効果の対象に加えた。

その際、当該朝市に関連して発生する需要

に対する供給事業者は、八戸市を中心に青森県県南地方から岩手県北地方にわたることから、今回の経済波及効果は、北奥羽経済圏域に及ぶものと考えられる。

(2) 部門別直接支出額

① 出店者の売上高

出店者の年間売上高は、およそ6億1千万円と推計される。(第4表)

業種的には、青果物をはじめ鮮魚・塩干物、生花、食品、飲料、衣料、雑貨などの商業販売金額が2億2千5百万円と最も多く、次に、惣菜やパン・菓子、製麺、水産高品品などの食料品製造業が1億4千5百万にのぼる。

三番目として、出店数が97業者と最も多い農業の売上高が1億1千6百万、漁業の売上が8百万円と推計されるように、流通業者を経由しない農林漁業者の売上高が、全体の2割を占めていることが朝市としての大きな特徴であり、「地産地消」としての経済効果が期待される。

また、当朝市の特徴として、ラーメン、そばなどの飲食やお好み焼き、焼き鳥など屋台

第4表 部門別直接消費支出

(千円)

| | | 出店者売上 | 朝市事務局 の運営費 | 周辺店舗・ 関連産業売上 | 観光消費・ 宿泊支出 | あさぐる・循環 バス・タクシー | 出店者・来場者 のガソリン代 | 計 |
|----|------------|---------|---------------|-----------------|---------------|--------------------|-------------------|-----------|
| 1 | 農 業 | 116,150 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 116,150 |
| 4 | 漁 業 | 7,575 | | | | | | 7,575 |
| 6 | 食 料 品 | 145,440 | | | | | | 145,440 |
| 8 | パルプ・紙・木製品 | 3,535 | | | | | | 3,535 |
| 21 | その他の製造工業製品 | 4,545 | | | | | | 4,545 |
| 23 | 電力・ガス・熱供給 | | 6 | | | | | 6 |
| 25 | 商 業 | 225,230 | 144 | 16,565 | 47,268 | | 109,876 | 399,083 |
| 28 | 運 輸 | | 24 | | | 3,576 | | 3,600 |
| 29 | 情 報 通 信 | | 397 | | | | | 397 |
| 30 | 公 務 | | 131 | | | | | 131 |
| 33 | その他の公共サービス | | 272 | | | | | 272 |
| 34 | 対事業所サービス | | 2,728 | | | | | 2,728 |
| 35 | 対個人サービス | 107,060 | 562 | 7,070 | 209,072 | 46 | | 323,810 |
| 36 | 事務用品 | | 112 | | | | | 112 |
| | | 609,535 | 4,376 | 23,635 | 256,340 | 3,622 | 109,876 | 1,007,384 |
| | 人 件 費 | 23,220 | 2,735 | | | | | 25,955 |
| | 計 | 632,755 | 7,111 | 23,635 | 256,340 | 3,622 | 109,876 | 1,033,339 |

(出所：高橋取材調査データ)

テント、コーヒー・ショップなどの「対個人サービス」の人気が高く、売上高は47店の1億7百万と推計される。

その他、朝市出店者の中には、週1回の販売事業のためにパートやアルバイトを採用しているところが多くみられ、家内従事者や常用従業員を除いた、臨時の雇用者は180名と推計される。そうした臨時の雇用者に支払われる人件費だけでも2千3百万円にのぼるものと思われる。

(試算根拠)

パート・アルバイトの人件費 180人×3時間×1,000円×43ヶ月=23,220千円

② 事務局の運営経費

「みなと日曜朝市」の運営事業体である、「海の朝市会」と「湊日曜朝市会」が、それぞれ会員から加入金と年会費を徴収し、当該朝市の事業運営を行っている。その二つの運営事務局の経費支出額が、年間7,111千円であり、そのうち人件費の支出額2,735千円が計上さ

れている。

③ 周辺店舗・関連事業者の売上

会場周辺の店舗やストア、飲食店、コンビニ、自動販売機の売上等のほか、出店者のアンテナショップとしての販売波及効果を加えた売上高を、推計約2千4百万円と試算した。

④ 観光関連支出

観光目的に訪れた来場者は3万6千人、うち宿泊者が約3千人と見込まれる。そして、観光客として朝市に訪れた際に、朝市以外の1人当たりの観光消費支出(12,581円-2,581円)をおよそ10,000円と算定した結果、商業支出額が47,268千円、対個人サービス支出額は189,072千円と推計した。

それに、宿泊支出推計額20,000千円を加算した結果、観光関連の総支出金額は、合計256,340千円と推計される。

(試算根拠)

ア. 観光客推計 12,000人×6%×50.5ヶ月(年間換算) =36,360人

イ. アンケート調査より消費支出主体
 夫婦・家族 36,360人×70%×0.5(2人づれ) =12,726組
 単独・団体 36,360人×30%×1.0(単独旅行) =10,908人
 合計 23,634組(人)

ウ. 一人当たり観光消費支出(平成22年度コンベンション調査実績) 12,581円

①お土産品 4,316円-朝市支出 2,316円 =2,000円

②飲食費 5,559円-同上 238円 =5,321円

③観光娯楽 1,908円-同上 0 =1,908円

④その他 798円-同上 0 =798円

朝市以外の消費支出 12,581円-2,554円 =約10,000円

エ. 朝市以外の消費支出

商業 ①お土産品 2,000円×23,634組(人) =47,268千円

対個人サービス②③④消費 8,000円×23,634組(人) =189,072千円

合計 236,340千円

オ. 宿泊費

アンケート調査より宿泊者 0.55%

12,000人×0.55%×50.5ヶ月(年間換算) =3,333人

3,333人×一泊6,000円

=約20,000千円

カ. 観光関連支出 エ+オ=256,340千円

⑤ 運輸(バス・タクシー)

バス、タクシーの売上高は、八戸あさぐる(乗り合いタクシー)と日曜朝市循環バスの利用者の売上収入が488千円と想定される。なお、利用実績は、東日本大震災のなかった平成22年度の利用実績をベースに試算した。

それに加えて、年間宿泊観光客の3,333人(アンケートより算出)が朝市を訪問したと仮定して、八戸あさぐる、日曜朝市循環バス利用者(推計450人)を除いたおよそ2,880人が、タクシーとバスを利用し、みなと日曜朝市会場を訪れた想定した。その結果、推定される売上収入3,088千円を合計した3,576千円を運輸収入として計上した。

その他、八戸あさぐる利用者の銭湯利用の売上高を46千円と計上した。

(試算根拠)

ア. 「あさぐる」+「日曜循環バス」=売上収入 488,170 円

イ. ア. 以外にホテルから直接、みなと日曜朝市にタクシーあるいはバスを利用した観光客の交通費

① 3,333 人-「あさぐる」「日曜循環バス」(450 人) = 2,880 人

② 往路タクシー 2,880 人 × 0.5 (2 人乗車) × 1,300 円 = 1,872 千円

復路タクシー 2,880 人 × 0.5 × 0.5 (半分) × 1,300 円 = 936 千円

復路バス 2,880 人 × 0.5 × 0.5 × 200 円 = 280 千円

ウ. タクシー及びバス利用による運輸収入額の推計

ア+イ = 3,576 千円

第 5 表 平成 22 年度「あさぐる」「循環バス」利用状況

(人)

| 項目 | 利用者数 | (うち日曜日) |
|-----------------|-------|---------|
| 八戸あさぐる (乗合タクシー) | 777 | 225 |
| 日曜朝市循環バス利用者数 | 3,336 | 3,336 |

⑥ 自動車関連経費 (ガソリン代)

今回の調査の結果、出店者や来場者の居住地が広範囲に及ぶうえ、自動車による移動が大部分を占めることから、ガソリンの消費が大きい。そこで、ガソリンの購入金額を算定するために、それぞれ居住地からの距離に、1 リットル当たりガソリン 140 円 (平均 10 キロ走行と仮定) として試算した。

その結果、年間ガソリン価格の総購入額は 1 億 1 千万円と推計される。

(試算根拠)

ア. 自動車利用の来場者

a. 利用台数

来場者のアンケート調査の結果より、自動車での来場者割合 83.6%
自動車での来場者 12,000 人 ×

83.6% = 約 10,000 人

利用自動車台数 5,589 台

来場者の人数…1 人 (20.8%)、2 人 (56.8%)、3 人 (15.3%)、4 人 (3.3%)、その他 (3.8%) より推計し、自動車利用者 10,000 人のうち使用した自動車は 5,589 台と試算。

b. ガソリン使用量 (金額)

来場者のアンケート調査の結果より…湊周辺地区 (11.1%)、八戸市内 (62.1%)、県内 (12.4%)、県外 (14.4%) より推計し、ガソリン消費額 (1 リットル 140 円、10 キロ走行を前提に試算) は 101,650 千円

イ. 出店業者等のガソリン消費額

a. 出店業者 326 人の居住地より距離数

| | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|------------|
| を勘案し、1 キロ 140 円、10 キロ走行を前提に試算 | パート・アルバイト | 180 人 |
| 年間ガソリン消費額 5,300 千円 | 計 | 606 人 |
| b. パート・アルバイトのガソリン消費金額 | 180 人×①の平均距離 27 キロ× 140 円×日数 43 日 = | 2,926 千円 |
| 事業者 326 人 | 合計 a+b=8,226 千円 | |
| 家族・従業員 推計 100 人 | 総合計 ア + イ = | 109,876 千円 |

第 6 表 出店業者の居住地

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-------|---|-------|---|------|---|-----|-----|
| 八戸市 | 237 | 田子町 | 4 | 三沢市 | 2 | 青森市 | 1 | 一戸町 | 1 |
| 階上町 | 17 | 五戸町 | 3 | 十和田市 | 3 | ひろの町 | 6 | 軽米町 | 2 |
| 南部町 | 29 | 新郷村 | 1 | 七戸町 | 1 | 久慈市 | 1 | | |
| 三戸町 | 6 | おいらせ町 | 7 | 五所川原市 | 1 | 二戸市 | 4 | 合計 | 326 |

(出所：高橋取材調査データ)

(3) 生産誘発額

今回の八戸「みなと日曜朝市」に関連した需要発生額 10 億 3 千 3 百万円を 37 部門の業種別に分類し、「平成 17 年度青森県産業連関表」を用いて経済波及効果の計算を試みた。その結果、生産誘発額は、直接効果 10 億 7 百万円に第 1 次波及効果 3 億 3 千 2 百万円、

第 2 次波及効果 2 億 5 千 9 百万円を加えた 15 億 9 千 8 百万円が算出され、およそ 16 億円の経済波及効果が得られることが明らかになった。

また、新たに 150 人の雇用者が生み出されたと推計された。

(1) 施設・衛生・品質・駐車場関係

① 食品衛生面

当該朝市には、みなとの朝市特有の生鮮魚介を扱っていることから、生もの提供に関する衛生面や消費期限の管理に関するトラブルが少なからず発生し、関係当局の調査や指導が随時行われているようである。

実際、現場に足を運んでみると、金銭に触れた手で生もの商品を手袋に入れたり、突然の天気不順から雨ざらしにあった生もの食品を、そのまま水を切ってそのまま販売したり、素人目にも衛生上懸念される事象が少なくない。

その他、当該朝市の場合、飲食や総菜、お好み焼きなど、目の前で焼いたり、煮たり、揚げたりし、商品・サービスを提供する商売が人気をあげている。保健所に対し届け出を行い、衛生管理指導に則って調理を行っていることは当然のことであるが、現場の対応において、全く問題がないわけではない。

食中毒などの大きな問題は発生していないようであるが、一度大きな問題が発覚すれば、朝市のイメージダウンばかりか、営業そのものの存続さえも問題になりかねないリスクが存在する。そのため、改めて管理している運営事業者による全出店業者に対する食品衛生管理の指導と管理の徹底が課題としてあげられる。

② 鮮度・品質面

また、消費期限の過ぎたと思われる生鮮食品を、新鮮に見せる工夫を施して販売するなど、商道德に反する業者もいないわけではない。そうしたビジネスとしてのマナーを欠いた業者の指導は、朝市参加会員の会議や講習

会において指導が行われている運営事業者もあるようだが、参加者全員への指導が徹底されているわけではない。

二つの運営事業者が存在し、全出店業者に対する統一された共通の商品管理の指導体制がみられないことから、徹底されていないところに難しさがある。まさに、ソーシャルマーケティングとしての社会的責任意識の醸成と合わせて、食品事業に関わる事業者の問題が問われている。

③ トイレ等の衛生

現在、朝市会場には、二つの事務局が用意する2ヶ所の簡易トイレがあるが、出店事業者及び従業員、パート、アルバイトのおよそ600人に加え、1万人を超える来場者を考えると不足は否めない。現実的には、水産公社の店舗など周辺施設のトイレを利用するなど、その都度急場を凌いでいる状態である。

また、生ものを初めとする食品を扱っている施設からして、販売事業に携わる従業員や食品に触れる来場者の手を洗う場所がない。

今後、事業運営をさらに拡充し、観光客を本気になって受け入れるためには、こうした最低限の生理的・衛生的条件をクリアするための努力と実行が必要であり、二つの運営事業者の共同運営の重要性が求められる。

④ 駐車場面

現在、2ヶ所の駐車場に誘導者を配置して案内を行っているようであるが、平常月において、事業者及びパート・アルバイトの車両506台に、来場者の利用車両5,589台を加えると、延べ必要駐車台数は約6,000台となる。

現実には、来場者の入替えにより必要駐車

台数が少なくなるが、朝市会場周辺の路上や施設の空き地を利用しており、日曜の早朝とあって事なきを得ている。当然のことながら、繁忙期やイベント催事の際には不足となり、さらに事業の拡充を視野に入れた駐車場対策が求められることになる。

(2) 運営上の問題

① 営業時間と櫛の歯の抜けた通り

朝市の開催時間は、夜明けから午前10時とある。ところが、午前8時前には、すでに商品を売り尽くし、店をたたんで帰ってしまう業者も少なくない。

そのため、午前8時過ぎた頃には、朝市の通りの一画によっては、櫛の歯が抜け落ちたように、屋台テントや戸板店舗が消えてなくなり、残された店の通りからは人通りが途絶え、朝市の街並みの体をなさない通りもある。

一方、折角、早朝訪れた観光客や買い物客の期待を裏切ることになるほか、出店業者にとっても、通りから賑わいが欠け、集客力が低下し、売上がままならないリスクを抱えることになる。

② 空き店舗対応と経営意識

また、時季によっては、早朝から朝市会場に空き店舗が目につくことが多い。農家や漁業など一次産業に携わる業者によっては、時季によって収穫、漁獲の少ない時期もあって、店を開けない日がある。また、惣菜、お好み焼きなどの屋台テント業者によっては、他の会場イベントへの参加なども重なり、空き店舗にせざるを得ない時期もある。

ところが、朝市会場に店舗を構える事業者は、「誰のために」「何のために」事業を営ん

でいるといった事業理念をしっかりと持ち、事業者としての経営意識を持つことが何よりも大事である。そのため、責任をもって店舗を開くか、開けない事情がある場合には、運営事業者と連絡の下で、店舗を維持する対応が求められる。

一方、事業運営者としても、朝市会場の街並みを維持し、来場者に対する満足を提供し続けるマネジメントとしての義務がある。そうでなくては、せっかく観光を目当てに来場した旅行者にとって、評判を落とすどころか、観光スポットとしての地域経済活性化の役割を果たせないことになる。

③ 店舗構成

みなと日曜朝市は、「何でもありで楽しい」という声がある半面、「雑然としていて、1回来たら、もう十分だ」との声も聞かれる。しかし、日本一の朝市として評価され、地域の観光スポットとしての役割を期待されるとなると、朝市市場として運営上の経営管理が必要となる。

それは、地域の「地産地消」としての食品供給市場としての役割に加え、地域の観光スポットとして「地産他消」による観光振興に果たす期待が大きいだけに、供給サイドとしての店舗構成のバランスの工夫や、地域の魅力ある観光資源の提供を通して、顧客の満足を向上することが求められる。

④ 販売態勢

今回の調査の結果、来場者の中に観光目的が6.0%、1日700人から1,000人前後の観光客が来場している。農作物や漁獲物の時季によっては、まとまった量の購買も考えられる

が、意外と宅配を使った送りの販売をプレゼンする出店者が少ないのが実情である。

あるいは、インターネットを利用した注文や送りの販売も可能であるが、そうしたプロモーションの工夫があれば、折角の「地産他消」による地域活性化のチャンスを生かせるが、そうしたマーケティングによる有効な営業面での指導が必要である。

⑤ 朝市ブランド

ここの朝市に行くと「この商品が購入できる」、あるいは「この商品を購入するためには、この朝市に出かけなくては」といった、朝市でなくては手に入らないオンリーワンの商品、サービスがあってもいいのではないか。

朝市ならではの商品が無いわけではないが、そうしたインパクトの強い商品は少ないのが現状である。そうしたオンリーワンの商品やサービスを育て、取扱い店舗や事業者を広くPRし、認知度を広めることが、朝市の魅力を高め、ブランド化を推し進めることになると思われる。

それが、さらに相乗効果的に集客力を増すことによって、地域の観光スポットとして魅力を高め、地域化活性化の手段となり得るのではなかろうか。

(3) 市場のマネジメント

① 広報・PR・案内

「みなど日曜朝市」に関して、「あばっせ!」というコミュニティ紙が発行され、店舗の業種や主な取扱い商品の紹介を兼ねた、便利な朝市マップが記載されている。しかし、折角の素晴らしいマップも来場者ばかりか、出店業者にも案内知られていないところが残念で

あり、広く配布し、行き渡るようにする手段を講ずることが大事である。

また、来場していただくお客様に対する店舗や商品、トイレ、駐車場、案内所などを表示した、簡易な案内図を入口数箇所に掲示するなどの表示が必要である。

これだけの規模の朝市を、地域経済の活性化の事業の一環として振興していくためには、先ず、地元産の生鮮食品や高次加工された農水産物の「地産地消」をより推進することによって、地域資源の付加価値化と地域内資金循環を高めることが大切である。

そして、さらに「地産他消」を促進し、地域外から得た付加価値の地域内還流を促進していくためには、観光客を呼び込むことがポイントとなる。そうした意味では、八戸「みなど日曜朝市」は、観光スポットとして誘客力を秘めており、経済波及効果をより高める観光資源として有効に活用することが肝要である。

そのためのプロモーションの手段としての広報、PR活動をより効果的、効率的に推進するためには、農業観光を含めた広域市町村との連携を図るといった、戦略的発想が必要である。

② 朝市の事業運営マネジメント

当該朝市の事業運営をより拡充していくために大切なことは、基本的にリピート客をいかに維持し、拡大していけるかどうかである。そのためには、来場者満足の視点での運営が重要なポイントであり、そうした対応が、口コミ等によるプロモーションによって広まり、新たな来場者を呼び込む吸引力となる。

そうした意味で、今回のアンケート調査の結果では、予想以上に満足評価が高いが、半面、来場者からは、厳しい評価も耳にするほか、出店者会員による運営上の問題も内在することから、朝市の販売事業のマーケティング・マネジメントとともに、事業全体の運営に関する統一的な経営管理が重要と思われる。

また、現状二つの事業運営体がお互い競争意識を持つことで、事業運営面において活性化が期待されるが、一方では、朝市全体の事業運営を総合的に経営管理していくためには、事業組織そのものの統合、または協議運営組織による統合運営管理が最低限求められるのではなかろうか。

③ 運営支援組織の構築

さらに、当該「みなと日曜朝市」が八戸を

中心とした北奥羽経済圏域の活性化の牽引役としての役割を期待するのであれば、朝市全体の事業を総合的に運営する業務推進組織とその戦略的事業のマネジメントをつかさどるリーダーの存在が重要である。そして、その事業を運営面や業務、観光面などにおいて、地域全体で支援するための連携運営組織が大きな役割を果たすのではなかろうか。

そのためには、二つの朝市の運営事業体に加え、行政、経済団体、大学、地域金融機関、研究機関、市民代表などによる運営協議会などの運営支援組織を構築するとともに、それぞれの構成員が使命共同体としてネットワークを生かした支援活動を行うことが必要と考えられる。

(以上)

1. どちらから、お出でになりましたか？

| | 八戸市内 | 八戸市外 | 未回答 | |
|--------|------|------|------|------|
| 全数 | 140 | 43 | 0 | |
| 構成 (%) | 76.5 | 23.5 | 0.0 | |
| | 湊周辺 | 八戸市内 | 青森県内 | 青森県外 |
| 全数 | 32 | 108 | 19 | 24 |
| 構成 (%) | 17.5 | 59.0 | 10.4 | 13.1 |

2. 朝市に來られた目的を教えてください。

| | 買い物 | 飲食 | 見物又は散策 | 観光 | その他 | 未回答 |
|--------|------|-----|--------|-----|-----|-----|
| 全数 | 147 | 17 | 37 | 11 | 13 | 0 |
| 構成 (%) | 80.3 | 9.3 | 20.2 | 6.0 | 7.1 | 0.0 |

3. 買い物、飲食等には、何回おいでになりますか？

| | ①ほぼ毎週 | ②月に2~3回 | ③1年に4~5回 | ④1年に2~3回 | ⑤その他 | 未回答 |
|--------|-------|---------|----------|----------|------|-----|
| 全数 | 69 | 54 | 13 | 13 | 34 | 0 |
| 構成 (%) | 37.7 | 29.5 | 7.1 | 7.1 | 18.6 | 0.0 |

4. 毎回、いくら位お使いになりますか(予定ですか)？

| | | ①ゼロ | ②500円位 | ③1000円位 | ④2000円位 | ⑤3000円位 | ⑥その他 | 合計 |
|------|--------|-----|--------|---------|---------|---------|------|------|
| ①買い物 | 全数 | 5 | 1 | 33 | 41 | 42 | 24 | 146 |
| | 構成 (%) | 2.7 | 0.5 | 18.0 | 22.4 | 23.0 | 13.1 | 79.8 |
| ②飲食 | 全数 | 0 | 0 | 2 | 4 | 7 | 4 | 17 |
| | 構成 (%) | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 2.2 | 3.8 | 2.2 | 9.3 |
| ③見物 | 全数 | 1 | 3 | 11 | 10 | 5 | 7 | 37 |
| | 構成 (%) | 0.5 | 1.6 | 6.0 | 5.5 | 2.7 | 3.8 | 20.2 |
| ④観光 | 全数 | 2 | 0 | 1 | 1 | 2 | 5 | 11 |
| | 構成 (%) | 1.1 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 1.1 | 2.7 | 6.0 |
| ⑤その他 | 全数 | 1 | 1 | 3 | 2 | 5 | 1 | 13 |
| | 構成 (%) | 0.5 | 0.5 | 1.6 | 1.1 | 2.7 | 0.5 | 7.1 |
| 全体 | 全数 | 8 | 3 | 41 | 50 | 49 | 31 | 182 |
| | 構成 (%) | 4.4 | 1.6 | 22.4 | 27.3 | 26.8 | 16.9 | 99.5 |

4-1. 何を買われましたか？(複数回答可)

| | 青果物 | 魚介類 | 惣菜 | 菓子 | ラーメン | そば | コーヒー | その他 | 未回答 |
|--------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 全数 | 43 | 37 | 33 | 3 | 0 | 1 | 6 | 12 | 98 |
| 構成 (%) | 23.5 | 20.2 | 18.0 | 1.6 | 0.0 | 0.5 | 3.3 | 6.6 | 53.6 |

5. 満足されましたか？

| | | ①満足した | ②やや満足 | ③普通 | ④不満 | 未回答 |
|------|--------|-------|-------|-----|-----|-----|
| ①買い物 | 全数 | 125 | 18 | 4 | 0 | - |
| | 構成 (%) | 68.3 | 9.8 | 2.2 | 0.0 | - |
| ②飲食 | 全数 | 16 | 0 | 1 | 0 | - |
| | 構成 (%) | 8.7 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | - |
| ③見物 | 全数 | 29 | 5 | 2 | 1 | - |
| | 構成 (%) | 15.8 | 2.7 | 1.1 | 0.5 | - |
| ④観光 | 全数 | 8 | 2 | 0 | 0 | - |
| | 構成 (%) | 4.4 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | - |
| ⑤その他 | 全数 | 9 | 3 | 1 | 0 | - |
| | 構成 (%) | 4.9 | 1.6 | 0.5 | 0.0 | - |
| 全体 | 全数 | 148 | 26 | 7 | 1 | 1 |
| | 構成 (%) | 80.9 | 14.2 | 3.8 | 0.5 | 0.5 |

6. 何で(交通手段)來られましたか。

| | ①徒歩 | ②自転車 | ③自動車 | ④バス | ⑤タクシー | ⑥その他 | 未回答 |
|--------|-----|------|------|-----|-------|------|-----|
| 全数 | 13 | 10 | 153 | 1 | 1 | 5 | 0 |
| 構成 (%) | 7.1 | 5.5 | 83.6 | 0.5 | 0.5 | 2.7 | 0.0 |

7. 何人でおいでになりましたか

| | ①1人 | ②2人 | ③3人 | ④4人 | ⑤その他 | 未回答 |
|--------|------|------|------|-----|------|-----|
| 全数 | 38 | 104 | 28 | 6 | 7 | 0 |
| 構成 (%) | 20.8 | 56.8 | 15.3 | 3.3 | 3.8 | 0.0 |

8. あなたの年齢はいくつでしょうか？

| | ①10歳代 | ②20歳代 | ③30歳代 | ④40歳代 | ⑤50歳代 | ⑥60歳代 | ⑦70歳代 | ⑧80歳代 | ⑨90歳代 | 未回答 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|------------|-------|-----|
| 全数 | 2 | 8 | 18 | 34 | 40 | 58 | 20 | 3 | 0 | 0 |
| 構成 (%) | 1.1 | 4.4 | 9.8 | 18.6 | 21.9 | 31.7 | 10.92896175 | 1.63934426 | 0 | 0.0 |

| | 男性 | 女性 | 未回答 |
|--------|------|------|-----|
| 全数 | 70 | 113 | 0 |
| 構成 (%) | 38.3 | 61.7 | 0.0 |

みなと朝市 買い物に関するアンケート調査のお願い

1. どちらから、お出でになりましたか？

- (1) 八戸市内 ⇒ ① 湊周辺(鮫・白銀・湊・小中野) ③ 八戸市内
(2) 八戸市外 ⇒ ① 青森県内 () ② 県外 ()

2. 朝市に来られた目的を教えてください

- (1) 買い物 (2) 飲食 (3) 見物または散策 (4) 観光
(5) その他 ()

3. 買い物、飲食等には、何回おいでになりますか。

- ① ほぼ毎週 ② 月に2～3回 ③ 1年に4～5回
④ 1年に2～3回 ⑤ その他 ()

4. 毎回、いくら位お使いになりますか(予定ですか)？

- ① ゼロ ② 500円位 ③ 1,000円位 ④ 2,000円位
⑤ 3,000円位 ⑥ その他 (円)
⇒ 青果物、魚介類、総菜、菓子、ラーメン、そば、コーヒー、()

5. 満足されましたか？

- ① 満足した ② やや満足 ③ 普通 ④ 不満
⑤ 感想・要望等 ()

6. 何で(交通手段)来られましたか。

- ① 徒歩 ② 自転車 ③ 自動車 ④ バス ⑤ タクシー
⑥ その他 ()

7. 何人でおいでになりましたか

- ① 1人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人 ⑤ その他(人)

8. あなたの年齢は、いくつでしょうか？

- ① _____ 歳代 ② 男 : 女

ご協力 誠に有難うございました。

アンケート調査

下記のアンケートにご協力お願い致します。
番号を○で囲んでください

1. あなたの業種をお知らせ下さい。

- ① 農業生産者
- ② 漁業生産者
- ③ 青果物販売
- ④ 鮮魚・塩乾物販売
- ⑤ 食品加工販売 (弁当・惣菜・漬物・焼き鳥等)
- ⑥ 菓子製造販売 (菓子・パン・餅・たこ焼き・たい焼き・チヂミ等)
- ⑦ ラーメン・そば・うどん飲食
- ⑧ 飲食 (コーヒー・ホットドック等)
- ⑨ 衣料・身の回り品・雑貨販売
- ⑩ その他 ()

2. 1日のお客様は何人くらいですか。

- ① 10人～20人
- ② 30人～50人
- ③ 60人～90人
- ④ 100人～150人
- ⑤ 150人～200人
- ⑥ 200人～

3. 住いはどちらでしょうか

- ① 八戸市
- ② 階上町
- ③ 南部町
- ④ 三戸町
- ⑤ 田子町
- ⑥ 五戸町
- ⑦ おいらせ町
- ⑧ その他 ()

4. 出店して何年目でしょうか。

- ① 1年目
- ② 2年目
- ③ 3年目
- ④ 4年目
- ⑤ 5年目
- ⑥ 6年以上

ご協力 誠に有難うございました。